敬愛大学　「教育原論」第11・12回課題　「どのような教師になりたいか」解答例

Ａ

五つのそれぞれの資料について、私が教師になったら、どのような心構えで、どのようなことに力を入れていくかについて述べたい。

第一の資料では、専門的な技術を必要とする医師のたとえを用いて、教育技術の向上が教師には必要と説いている。私もこの意見に賛同で、教育的なスキルは必ず必要不可欠なものだと思う。なので、思いやりはもちろんのこと、教科を教える技術が高い先生を目指し、ほかの教師からも信頼を得られるような水準まで自分を高めていきたいと思った。

第二の資料では、日本の小学校教師の一日について、その仕事内容が明確に示されている。資料を読んでわかる通り教師は学習指導以外にも中休みで子供と接する、給食指導、清掃指導など生活に直接的にかかわってくる事柄がある。わたしは特に中休みなどに子供と一緒に遊んで接する部分において、力を入れていきたいと思った。遊びの輪の中でしかわからない児童の友人関係などを確認して、学級を平和に保つための努力をしようと思った。

第三の資料では、日米の小学校の授業の様子の比較において、日本の学校の様子を自発的または統制の両方の性質があることを述べている。私は朝の会などを児童が中心となって進めることを自発性だととらえる。確かに集団行動を協調的、かつ効率的にまとめているという感じがするのは否めないが、効率的であることは悪いことではないし、子供の自発的行動を集団行動の中で引き出すことは子供の将来にとって良いものであるといえる。なので、わたしは日直や係の指示を子供の自主性を尊重して行わせていきたいと思う。

第四の資料では、日本の小中学校教員の仕事時間の長さや、生徒主体の学びの授業が不十分であることを述べている。上記に記した通り、私は生徒主体の学びを行っていく必要性があると思っているので、明らかな解決法が存在しない課題の提示を、道徳やその他教科で行い、生徒の主体性の向上及び主体的に思考する能力の向上を目指していきたい。

第五の資料では、教師の奉仕性における、自己実現ワーカホリックの危険性を説いている。子供を第一に考えるのは教師として当然であり、とても望ましいことであるが、だからと言って働きすぎてしまい長時間労働をするのは社会的にも自分自身にとってもいいことではないと思う。しかし、部活動の残業問題や事務作業による残業など、教師の労働問題はたくさんある。これについては部活動休養日を設けるだとかいろいろな解決策があるがっているが、現状として解決していないのが事実である。ワークシートでは社会に組み込まれている隠れた仕組み(罠)に気を付ける必要があると述べているが、これも非常にあいまいな表現であり、具体的な解決策については一切触れられていない。この課題はそれほど深刻なのである。子供のことを思いつつ、一切残業しないで定時に上がるのは不可能に近いと思い始めている。子供のためか、自分の健康のためか、どちらに力を入れるかと聞かれたら決めかねてしまうような問題だ。もし最善の具体的な策があるのであれば、ぜひご教授いただきたく存じます。

Ｂ

今回の課題は、シンプルなようでとても難しいと思いました。全ての資料に目を通しましたが、この質問の答えに明確な正解はないと思います。しかし、あえて答えを出すとするなら、「日々前向きで真摯な気持ちで、児童の将来への可能性を広げてあげることに力を入れる先生になりたいです。」

　「先生」と言われる職業は、どのような職業なのか。もちろん教員は先生と呼ばれます。その他は、向山洋一さんの資料で紹介されている医者や、ドラマなどでは弁護士などの職業も「先生」と呼ばれていました。このように「先生」と呼ばれる職業には、信頼や実績はもちろん、重い責任を背負っている職業が多いです。(その他の職業もそうだと思います。)

ですので、もし自分が晴れて教員になることができたなら、責任感を持って信頼されるよう努めるのはもちろんですが、児童の可能性を広げてあげられるようにしたいと思っています。現在、新型コロナウイルスの影響で教育方法や教育機関のあり方が注目されています。学校という場所は、座学や勉強を集団で行うだけの場所ではありません。日常生活で欠かせない知識や周りとの協調性、効率的な体の動かし方など、学校という場所は多くのことを学ぶことができ、自分の可能性を最大限広げることができる場所だと思います。前向きで明るく真摯な気持ちを持つ。先生がそうすることができれば、児童も大きく成長することができると思います。

　また、教員の働き方改革は実現しているそうでまだできていないのが現実です。私の姉は大学を卒業し、小学校教員一年目を過ごしていますが、帰りが遅く大変そうです。やはり話を聞くと、生徒と接している時間以外の時間、特に事務作業が本当に多いらしいです。学年だよりを新任の姉が一人で作成したり、新型コロナウイルスの影響で休校になっていた時は、課題の作成や生徒の安否確認など、本当に大変そうでした。よく「大変なことは承知のうえで教員になっているのだから仕方ないじゃん。」と一般企業を志望している人などは言いますが、そのように思ったままでは何も変わらないし、教育改革も進まないと思います。先生の働き方と児童教育は密接な関係があると思います。日々疲れ切っている教員に、最高の授業をしてくださいと言われても無理があると思います。どうすればこのような問題が解決するのか、私たちも考え続ける必要があると思います。

Ｃ

 私は、教師になるために敬愛大学国際学部こども教育学科に入学しました。同じ学科のみんなもほとんどがそうだと思います。“どんな教師になりたいか”大学受験をするにあたり、｢生徒みんなから好かれる教師｣｢楽しいクラスを作れる教師｣｢児童全員平等に接することのできる教師｣など、今までもたくさん考えてきました。今回の課題を通して、より深く考えられる良い機会となりました。

 第1に、私は、教師は、こどもが好きで、児童・生徒への思いやりさえあれば務まる職業では無いと思います。医者の場合でも取り上げられていたように、教師という専門職にも知識や技術が必要とされます。思いやりも大切ですが、それだけでは絶対に務まりません。

 第2に、日本の小学校教師の1日はかなり大変なものであると思います。授業だけでなく、授業準備、休み時間での遊び、挨拶、給食、事務など山ほどの仕事があります。今まで生徒側では先生の大変さなど気づくことはありませんでした。それはきっと今までお世話になった先生方の努力のおかげなんだと思います。私も辛い苦しい部分を見せない教師になりたいです。

 第3に、日本の学校や教師の特質は、自主性を重んじ、統制をはかるところだと思いました。何かと集団行動の多い日本の学校では、重要なことではあると思います。しかし、個性が際立たされないことはとても残念に思います。現に学校生活においても、社会に出てからも、自分を押し殺して生活している人が多いように思います。私は人それぞれの｢らしさ｣がとても好きです。今まで出会ってきた友人たちにも、いつまでも｢らしさ｣を大事に、自分を大事にして欲しいなと思っています。これは友人たちにも限らず、この世の全ての人にそうであってほしいとも思います…。しかし、自分を大切にするのと、自己中では全く異なってしまいます。そこで、少しの統制が大切になってくるのかなと思いました。

 第4に、日本の教師の特質は、世界の教師の平均と比べ、｢課外指導｣と｢事務業務｣の時間が長く、｢職能形成｣の時間が少ないことだと思われます。｢アクティブ・ラーニング｣の強化を図り、教師の力量を上げられるようになれば良いと考えました。

 第5に、｢自己実現系ワークホーリック｣の危険に晒されている教師の忙しさですが、これは日本人が真面目すぎるが故に起きているのではないかと思いました。日本人は仕事を何もかもをも真剣に取り組み、時間をたくさんかけているように思います。例えば、手を抜くと言うと少し悪く聞こえてしまいますが、力を入れるところ、軽く抜くところ、とでメリハリをつけるような必要があるのではと考えました。真面目であるのは日本人の良いところでもあります。そこが裏目に出てしまっているのかもしれません。

 私が教師になったら、全てを完璧にこなす！ではなく、適度に、という気持ちにゆとりを持つという心構えで、教師としての知識・技術を身につけること、児童・生徒の個性を伸ばすことに力を入れる教師になりたいです。

Ｄ

今回読んだそれぞれの資料から考えたことや、私が目指す教師像についてまとめていく。

　まず、思いやりと指導力どちらが重要かという問題についてだ。指導力はもちろん必要だが、教師自身の知識の豊富さと指導力の高さは別問題である。子供への思いやりを持ち、子供の気持ちを理解することができなければ、子供にとって分かりやすい指導はできない。つまり、指導力は高い方が良いが、それを可能にするためには子供への思いやりが必要不可欠だということだ。

　次に「学校の1日」についてだ。資料を読んで、教師の仕事の素晴らしさと大変さを改めて感じることが出来た。子供の成長する姿を間近で見ることができるのは教師の素晴らしい面だと思う。しかし、休憩時間が一切なく、常に気を張っていなければならないという面は教師ならではの大変さだと思う。

　次に、日米間の指導方法の違いについてだ。日本の指導方法では個性の欠如が起きるという意見にも賛同できる。しかし、全てをアメリカの指導方法に寄せ、新しく作り直す必要はないと思う。世界の国々にはそれぞれに国民性というものがあり、それぞれに長所も短所も存在する。これは長い歴史の中で培われた大切な伝統である。それを全ての国で統一してしまったら、それこそ個性が欠如してしまう。日本は時代に合わせ、他の国を参考にしながら変えるべきところは変え、残すべきものは自信をもって貫くべきである。

　次に、日本の教師の「職能形成」の時間の短さについてだ。日本の教師の仕事量が多いのは分かる。しかし教育に関わる人々が協力と工夫をし、どうにか「課外指導」と「事務業務」の時間を一部減らすことはできないだろうか？そうすることで「職能形成」の時間を増やせると思う。教育や学校について知識が浅い私には具体的な案を出すことがまだできない。これからの学習に全力で取り組み、この答えを見つけたい。

　次に「教師の働きすぎ問題」についてである。教師の忙しさは「自己実現系ワーカーホリック」であると思う。子供のために努力できるのは素晴らしいことだが、それで体を壊して休職することになったら逆に生徒に迷惑をかけてしまう。何事も限度が大切だと思う。

　私が将来教師になったら、生徒の立場になって考え、行動できる教員になりたい。それを実現させるための知識と能力を身につけるために、これからの学習に全力で取り組んでいく。

Ｅ

　私は教師になったら、教育者として国語、算数、理科、社会や英語の主要５科目、音楽、図画工作、家庭や体育の技能科目を責任もって生徒に教えることに重点を置きたい。親から預けられた子どもたちに対し、教師に一番求められていることを果たすまでである。能力が高い専門家は必然的に信頼されるのと同じように教師もよい授業を行い子どもたちの理解や成績を伸ばすことができれば、そのまま信頼に繋がるだろう。しかし、心身ともに成長が著しい小学生を相手にすれば、各科目にのみ力を入れ授業をしていればよいわけではないという考えもある。たしかに、授業中以外ほとんどコミュニケーションがないだとか、生徒一人一人に無関心だとか、そのような教師は信頼されないだろう。もしクラスで予想外な出来事、問題が発生したとき、教師と生徒との間に普段からの信頼関係がなければ、解決することは難しい。そのため、各科目だけに力を入れる以前に自分自身の人柄や子どもたちに対する愛情、熱意を持つことが大切だ。幸い、私は、子どもだけでなく人と関わることやコミュニケーションをとることや身体を動かすことが得意であり好きだ。授業以外での活動にも自信があるため、積極的に子どもたちに携わり、一緒に成長しながら楽しい時間を過ごしたい。

　ただ現実は、教師という仕事は「好き」だけではやっていけないこともたしかである。日本の小学校では、学科外活動も教育の一環としてカリキュラムに組み込まれていることから、労働時間が非常に長い傾向にある。2018年に実施された国際教員指導環境調査の結果では、小学校教員は、仕事時間54.4時間、事務業務5.2時間に加え、授業準備8.6時間と参加国最多であった。一方、1週間で知識や専門性を高めるための職能開発に費やした時間は参加国で最も短く、問題点として挙げられる。子どもたちの学びの質を高めるため、教師自身が学級活動外で学びの時間を増やす必要があると考える。

　このように、労働時間は長くなる一方だが、今回このような現実を知り新たな心構えができた。そして、今のうちにもっと学び、主要5科目並びに技能科目などの知識を身に付け、将来立派な教師になりたい。

Ｆ

私は教師になったら一番大事にしなければいけないのは、子どもたちへの接し方だと思います。もちろん子どもたちに教える立場として教育技術の向上もすごく必要だと思いますが、いくら技術があっても心のない教師はいつまでたっても成長できないと思います。子どもたちには、教育技術がすごいかどうかよりも、笑顔で話を聞いてくれて、でもいけないことをしていたらきちんと注意をしてあげる心のある教師が必要だと思います。そこは人として子供たちが大人になっていくうえで大事なことだと思うし、私もそれを大事にしたいと思っています。「そんなのきれいごとだ」という風に思う人もいるかもしれませんが、私は思いやりのある教師にあこがれているし、私もそんな教師になりたいです。

そしてもう一つ教師に仕事が多いということについてです。私は最近部活動を教師が指導するのではなく外部の指導者に委託するという記事のネットニュースを見ました。教師の仕事が忙しく部活動までやる時間がないというのも分かりますし、私もひとつひとつやることが遅いので、そんな毎日たくさんの仕事をしていたら嫌になったり、具合が悪くなったりしてしまうこともあるかもしれません。ですが部活動での教師と生徒の関係は、普段の学校生活とは少し違うものだと思います。部活動を通して伝えられることや、わかることはたくさんあると思います。実際に教師の仕事をしたことがないから言えてしまうことなのかもしれませんが、私は外部の指導者ではなく、教師が行うべきなのかなと思いました。

Ｇ

私は、教師は、子どもが好きで、児童・生徒への思いやりしかないなら教師は務まらないと思う。子どもが好きで思いやりがあるのは良いことだとは思うけど、その思いやり以上に教科を教える能力や技術が必要だと思う。もちろん児童・生徒への思いやりは大事だし好きな子どもたちと一緒に過ごせるのは良いが、それだけでは教師という専門職は成り立たないはず。文部科学省が定めている学習指導要領を基準として、しっかりと教育過程を編成し、どの教科も児童をしっかりと実態を把握するために、日頃から児童の学力・体力の状況・人間関係・休み時間の過ごし方などを観察することが重要だと思う。学習する際には、授業の「ねらい」を明らかにして、児童・生徒の個々の得意・不得意をまずは理解させる。そしてなぜわからないのか、どうしてできないのかなど問題を明確にし、わかるようになるまで諦めずに何度も何度も考えさせ、問題を解決したときの達成感を覚えさせることも大事だと考える。また、学校行事では、その行事ごとになんのためにそれをやるのか「目的」だったり「めあて」を明確に示し、学習の成果を発表する場としても、そこに至るまでの努力や工夫、過程などで児童はたくさんのことを学ぶので、それぞれの行事のねらいを達成できるようにしていくことも大事だと考える。もちろん、実際に教師になってみないとわからないことだらけだと思うが、この大学4年間でどのような指導の仕方が効率的なのか、わかりやすいのか、こどもはなにを考えているのか、などしっかりと知識を身につけて、実力ある教師になりたいと思っている。

Ｈ

今回読んだそれぞれの資料から考えたことや、私が目指す教師像についてまとめていく。

　まず、思いやりと指導力どちらが重要かという問題についてだ。指導力はもちろん必要だが、教師自身の知識の豊富さと指導力の高さは別問題である。子供への思いやりを持ち、子供の気持ちを理解することができなければ、子供にとって分かりやすい指導はできない。つまり、指導力は高い方が良いが、それを可能にするためには子供への思いやりが必要不可欠だということだ。

　次に「学校の1日」についてだ。資料を読んで、教師の仕事の素晴らしさと大変さを改めて感じることが出来た。子供の成長する姿を間近で見ることができるのは教師の素晴らしい面だと思う。しかし、休憩時間が一切なく、常に気を張っていなければならないという面は教師ならではの大変さだと思う。

　次に、日米間の指導方法の違いについてだ。日本の指導方法では個性の欠如が起きるという意見にも賛同できる。しかし、全てをアメリカの指導方法に寄せ、新しく作り直す必要はないと思う。世界の国々にはそれぞれに国民性というものがあり、それぞれに長所も短所も存在する。これは長い歴史の中で培われた大切な伝統である。それを全ての国で統一してしまったら、それこそ個性が欠如してしまう。日本は時代に合わせ、他の国を参考にしながら変えるべきところは変え、残すべきものは自信をもって貫くべきである。

　次に、日本の教師の「職能形成」の時間の短さについてだ。日本の教師の仕事量が多いのは分かる。しかし教育に関わる人々が協力と工夫をし、どうにか「課外指導」と「事務業務」の時間を一部減らすことはできないだろうか？そうすることで「職能形成」の時間を増やせると思う。教育や学校について知識が浅い私には具体的な案を出すことがまだできない。これからの学習に全力で取り組み、この答えを見つけたい。

　次に「教師の働きすぎ問題」についてである。教師の忙しさは「自己実現系ワーカーホリック」であると思う。子供のために努力できるのは素晴らしいことだが、それで体を壊して休職することになったら逆に生徒に迷惑をかけてしまう。何事も限度が大切だと思う。

　私が将来教師になったら、生徒の立場になって考え、行動できる教員になりたい。それを実現させるための知識と能力を身につけるために、これからの学習に全力で取り組んでいく。

Ｉ

私はどんなに大変でも最後までや抜く心構えをもって教育活動に関わりたいと思う。小学校教員の仕事内容と役割をしっかりと理解して、途中で投げ出すことなく最後まで責任をもってやり遂げたいと思う。私は教員になったら、人間性を育てることに力を入れたいと思っている。もちろん基本的な学習や健康などの分野も力を入れるが、私は人間関係や個々の人間性、集団行動や個人行動など、人から教わって身に付けるものではなく日々の生活から身につく能力を伸ばしたいと思っている。個性を大切にしつつ学校という集団行動もしなければいけないとなると難しいと思うが、工夫をして教育していきたいと思っている。私は集団行動をしすぎて個人行動がまともにできなくなってしまうようなことがないようにしたいと思っている。私は小学校の時から今まで一人で活動をしたことが少ない。学校という集団行動の中で一人だけ違う役割を持つということをしたことがなく、委員会や係などはいつも二人以上で行っていたし、教室は知っている人のみの集団であり、なにを行うにしても友達と行ってきた。このことが関係あるのかはわからないが、私は一人で行動することが苦手だ。一人になると普通に行っていた作業も不安になってくるときもある。一人の時間はとても好きなのだが、一人で作業することは嫌いである。私は一人で作業をする時間が少なかったから個人行動に抵抗を持ってしまったのではないかと考えた。そして、逆に言えば最初は個人行動が苦手だったとしても、学校生活に慣れてきたら係や委員会などで個々に違う指示を出したりするなど個人行動を促すような指示を行うと集団行動から外れた時もしっかりとした意思をもって周りに人がいなくても一人で行動ができるようになるのではないかと思う。小学校の６年間の中で、日常生活に少しでも個人行動を取り入れることで苦手意識を減らすことができるのではないかと思う。あくまで現段階の私の考えだが、これから教育学を学んでいくうえでやり方をその都度考え直し、適切な方法で社会に出ても困らないような人間性を教育していきたいと思う。

Ｊ

私は常に向上心を持ち、生徒とともに成長していけるような教員になりたいと考える。そして、教員に必要な技術・知識などを身に付けられるように本などを読み、「教育のプロ」になれるように努力していきたい。

教師は、学校で起こる問題や授業内容に関しての知識は十分に身に付けておく必要がある。問題が起こった場合に適切な対応ができるようにしないといけないし、生徒から授業内容に関する質問をされたときにしっかりと質問に対しての答えを出してあげないといけないし、プラスαで何かを教えてあげられるようにできればなお良い。生徒の親御さんは、教員は教育に関する知識が十分にあり、子どもをしっかりと成長させてくれる人達という認識をしているだろう。その教員が問題が起こった際になにも対処ができない、行っている授業内容がひどい内容などであったら不満もたまるし、子どもを預けたくないだろう。親御さんが安心して子どもを預けられるような教員になるには、常に学び、知識や技術を向上させることができるように仕事以外に学ぶ時間を設ける必要があると考える。

しかし、教員は授業時間以外に課外指導や事務業務に時間を取られ、知識・技術の向上のために必要な職能開発に費やす時間がかなり短くなっている。そのため、教員に必要な技術・知識を向上させることが難しくなり、より良い授業の展開をすることができなくなってしまっているのではないだろうか。日本の教育の発展のためにも、課外指導や事務業務の時間を削減し、職能開発の時間をしっかり設けることで、教員の知識・技術を向上させることができ、教育の質が向上し、日本の未来がより良いものになることに繋がっていくと私は考える。

Ｋ

第一の問題について、もちろん教師なので教える技術は何よりも高くないといけないと思うが、それ以前に子供が好きで思いやりのある人じゃないと児童たちもそんな人の話を聞く気になってくれないとおもいます。の思いやりや子供が好き、という気持ちも同じくらい大切だと思う。

　第２の問題について、朝から始まり、児童が帰っても採点やそのほかの先生としての仕事は山ほどあるので１日８時間以上働いている教師は本当に大変な仕事だと思う。事務的な仕事ばっかりじゃなく、給食時間や休み時間は児童の人間関係や性格を見れる機会だ、と書いてあるのを見てプロの仕事だなと思った。

　第３の問題に、教師の仕事をアメリカ化しようとしているとされているが、日直や係があってきまりどうり動いている形はまじめで日本らしくていいと思う。

　第４の問題の日本仕事時間が一番長いのにその中で教員としての能力を上げるために用いられた時間が短いことに納得がいかない。丁寧で慎重に仕事をしていれば仕事時間が長くなってしまうのはわかるが、教員としての能力を上げるために用いられた時間は他の国でできているのだから事務時間を削ってもう少し増やせると思う。

Ｌ

私は子供が好きで、人に教えることが好きだから教師になりたいと思いました。しかし、これらの理由だけではやっていけるわけではなく、教師という専門職だから、教育技術の向上が必要です。

　日本の教師はほかの先進国と比べて労働時間がとても長いです。その理由は事務作業や課外指導は多いのに、職能開発の時間は最も短いからです。私はこの記事を見てとても驚きました。なぜ日本だけこんなにも労働時間は長いのに、授業や教師の力は伸びないのかと思いました。たしかに東京都の学校の１日を見ても、朝から放課後のまでずっと生徒の指導にあたらなければいけません。そしてそこからたくさんの会議や授業の準備を行っています。生徒の指導はすごく大切です。休み時間や給食の時間、清掃も一緒に行い、見ていなければなりません。そして、指導しなければなりません。しかし、そうすることで生徒のことをよく見れるし、新たなことを知ることができると思います。会議や授業準備も大切です。１日にやらなければいけないことが多く、とても大変だと思います。これらのことをやるにはやはり、効率よく行っていかなければならないと思います。やらなければいけないことを整理して順番に行う必要があると思います。また、わからなければ誰かに聞いたり、相談して時間に無駄ができないようにしなければ終わらなくなってしまうと思います。

　私は、生徒たちと一緒にいる時間を大切にして、よく見て指導し、一緒に遊んだりもして、生徒のことをしっかり理解してあげたいです。また、自分が行わなければいけない事務作業などは効率よく行えるよう工夫して、授業の準備は怠らないように頑張りたいと思いました。

Ｍ

　一つ目の資料から読んで、私は向山さんの意見に反論する。教育技術が向上が重要なことはわかるが、私たちの相手は児童である。児童は、人柄を見て判断する。そのため児童と教員がお互い信頼関係を持つことで、児童の勉強意欲が上がると感じる。このような児童の思いやりも教育技術の一つである。

　今回、1日の学校生活の中で教員が児童の生活を利用して工夫している、初めて知る内容があった。時間の使い方を工夫すれば、児童の精神や学力を向上につながることを忘れずにしたい。日本は順番でみんなが平等に同じ役割を経験する。そうすることで、相手の気持ちになって考えることができる。日本の良いところだと感じる。日本は労働時間が多く問題になっている。正直、教員の仕事を全部把握できていないので明確には考えられないが、私はなるべく、オンとオフのメリハリをつけたいと考えている。なので、時間を有効活用しうまく仕事ができれることが理想。

　私は、教員になったら仕事を楽しみたいと思っている。あまり教えることは得意でもないし、教員という仕事ができるかも不安ではあるが、めげずに行いたいと思う。自分自身の生活や仕事にメリハリをつけて前向きに教員の仕事をしたい。児童がこの先生に教えてもらえてよかったと言ってもらえるように、なりたい。

　Ｎ

あなたが教師になったら、どのような心構えでどのようなことに力を入れる教師になるか。

　私は向山洋一さんとは反対の意見で教育技術より思いやりを重視したい。なぜなら思いやりがない教師によって生徒が学校に来なくなったり、授業へのやる気がなくなったりすることは学習の機会を失っていると思うからだ。実際、私の周りでも教師の思いやりの無さが原因で学習の意欲がなくなったという友人はいる。もちろん教育を行う上で教育技術の向上というものは必要だが、私は生徒のやる気を出すことを重視したい。思いやりと教育技術の向上、どちらも備えることが教師になるにあたっての課題だと感じた。

また、今回の資料から日本の教育は効率が悪いのではないだろうかと感じた。アメリカと比べて団体意識や学科外活動を重視する教育は、団体活動が主な職業が多い現在の社会において必要不可欠であり重視する理由に値すると思うが、その反面、教師の長時間労働、授業内容の軽薄さにつながり、教師にとっても、生徒にとってもデメリットがあまりにも多いと感じた。ただ、人間形成がされていない小学生だからこそ清掃指導や給食指導、学校行事の決まりなど学習指導以外の指導が必要であり、どちらもおろそかにできないことは事実である。なので、効率の良い指導を教師がすることが重要であると私は考えた。例えば授業だったら、内容を伝えるだけでなく、成り立ちやエピソードを入れると生徒は想像しやすく、学習内容が入ってきやすいと心理学で学んだ。このように、どのようにしたら生徒が一回で深く学習するかを教師側が学ぶ必要があるのではないだろうか。そのためには私が現在、そしてこれから大学で学んでいく知識をどのように活用するかを考えていく必要がある。これこそが教育技術の向上にもつながり生徒にとっても、教師にとっても良い学校環境になると私は考える。

Ｏ

私が教師になったら、学力・勉強の面だけでなく、こども達の生活面の支援に力を入れる心構えをしたい。こどもの中には、塾などに通い、勉強に力を入れている子がいると思う。しかし、塾に通っても、勉学を教えてくれるだけで生活面（例えば、清掃や給食の配膳など）は教えてくれない。

昔は、掃除の仕方や食事の仕方、服の着替え方などの基本的生活習慣は家庭で身につけるというのが主だったそうだ。それが、現代では共働きの家庭やシングルマザーの家庭なども増えており、なかなか生活習慣を家庭で指導をするのが困難になっている状況である。そのため、学校で指導しなければならない児童が増えてきている。実際、箸の正しい持ち方ができない児童や、好き嫌いの多い児童も少なくないようである。私が小学生の頃にも、そのような人がいた。保護者から教師に丸投げされたり、指導しても児童からの反発があったりと、指導が難しく悩むことは多々あるはずである。若い頃は保護者から厳しい言葉が言われがちであると思う。保護者側も言いやすいからだ。なので、20代で教員を辞めていく人は少なくないと聞いたことがある。

教員は一見、楽しそうに見えるが、よく見てみると厳しい世界であると思う。教員の包括力が問われる問題であると思う。しかし、しっかりとした意志を持っていればやっていける仕事であるのではないかと私は思う。その上で、心構えとしては、こども達の生活面の支援に力を入れたり、こども達一人一人と向き合い、そのこどもならではの問題解決に取り組めるような教員を目指したい。

②本田由紀氏の軋む社会を見て思い出したのだが、学校の全ての部活動はその部活のコーチ（？）詳しい人を招き入れ・雇い、教員の負担を減らすという対策がある、というのをニュースで見たことがある。とても良い対策である。第一に本来の目的である教員への負担を減らすことができるし、こども達も教員以外、他の人と触れ合うことによって視野が広がると思った。

Ｐ

今回教師について五つの観点から考え、私が教師になったらどのような心構えで、どのようなことに力を入れる教師になりたいかを示していきたいと思う。

まず第一の資料から専門職として教育を任されていることから、思いやり以上に教育技術の向上が必要であると感じた。この資料を読むまでは児童と向き合おうとする姿勢が大事だと思っていた。しかし教師という立場は子供たちの成長のために親から子供たちを委ねられているのだから、その責任の大きさから心構えだけでは相応していないととても感じた。

次に第二の資料から授業以外でも児童のために尽くすことができるという小学校教師の良さを感じた。その自由のなさを欠点として感じる人もいると思うが、私は登校から放課後まで児童の成長に携わり一番近くで見守ってあげられるという点に魅力を感じた。

　次に第三の資料から集団行動を効率的に協調する教育が意識的に行われているという性質があると読み取った。この教育は自主性と統制のどちらの側面も持ち合わせている。しかしこれからの世界に通用する新しい日本を作り上げていくためには、個別化された指導と教師の分業化の導入が必要だと考える。

　次に第四の資料から日本は世界と比べ課外活動と事務業務の時間が最も長く、職能開発時間が最も短いという実態にとても驚いた。このことから日本の教師は、十分に児童の主体的な学習を行えていないということがわかった。日本の教育や教師は、どれだけ児童の主体性をもって学習指導計画通りに授業展開していけるかが課題であると私は考える。

　最後に第五の資料から教師の忙しさは「集団圧力系ワークホーリック」だと思った。小学校教師は一人で大勢の児童を担当している。その面から考えると自分の裁量で仕事の仕方を決め、児童の能力を自分の力で向上させたりより良いクラスを形成したりと「自己実現系ワークホーリック」として考えられる。しかし教師の忙しさはそこが問題ではなく、職員室で集団として仕事を行っている中での立場関係や空気感が働きすぎという実態を作り上げていると考える。

　このようなことから私は、児童に教えるというよりも一緒に考えるという心構えで児童と接し、児童の主体的な学習を第一に考えたアクティブラーニングを積極的に取り入れる教師になりたい。また、自分自身の能力や技術に向き合う時間をしっかり設けていきたいと思った。

Ｑ

教師と同じ専門職である医師の例を読んで、「一生懸命やる」という心構えでは立派な教師ではないという思いが増した。医師と同じで信頼されるためにはそれなりの技術を必要とすると思ったからである。

人間形成の日米比較を読んで、今まで普通だと思っていたことが他の国から見ると優れている、劣っているという感想を持つことがあることを知った。例えば、朝の会では日直が担任教師の作った朝の会の進め方に従って号令をかけたり会を進めたりする。自主性につながる行為だと考えがちだが、「個性欠如、統制、丸暗記」だという考えがあることを知って少し納得した。一見日直が指揮を執っているように見えても実際には担任教師が指示したことをやっているに過ぎない。

また、学科外活動が「教育の一環」となっている点については効率的に児童の人間性を観察できると思う。例えば給食指導では給食当番が責任を持てたり、配膳の様子から児童の性格や人間関係を読み取れたりできるし、休み時間の行動を見れば児童の落ち着きやどんなことが好きなのか読み取ることができる。

日本は集団行動が重視されるが、アメリカでは「自立した個人こそ望ましい」と考えられている。私は日本で重視される集団行動はコミュニケーション能力の向上につながり良いことだと思うが、同時に周りと合わせたり人に頼ったり、自己の判断能力が劣ってしまう原因にもなる恐れがあると思うので、アメリカのように個人が独立して自分の意思を持って行動できるような環境は素晴らしいと思う。

私は教員になったら、「一生懸命かつ効率的に仕事をする」という心構えを持ち、授業はもちろん特に人間形成に力を入れたい。これからはAIの進化や情報社会の発展によりオリジナリティが重視されていくと思うので、授業内だけでなく休み時間や登校指導、給食指導で児童の人間関係や性格を知り、個性を生かす教育活動ができる教員になりたい。そのような教員になるには教育技術をしっかり身に着けることが必要だと思うので、勤務時間を効率的に使い、OECD調査で参加国の中で最も短い自身の職能開発の時間を作れるようにしたい。